

審 議 経 過

No. 1

1. 開会

2. 委員長挨拶

- 松尾委員長から挨拶

3. 議題

(1) 令和4年度事業経過報告について

- 事務局から説明後、質疑応答

(委員) コロナ禍で難しい状況だと思うが、現在のブックスタートの形や参加率を教えてください。

(副館長) 月に1回、図書館で開催しているのと、図書館が開館している時間帯に来られた保護者の方に渡す形の2種類で実施している。参加率は50%程度である。参加されない主な理由は3つあると考えている。1つ目はブックスタート自体を知らないこと。2つ目はコロナ禍により赤ちゃんと一緒に外出するのを控えていること。3つ目は上のきょうだいが生まれた時に体験していて、ブックスタートのことは知っているが、取って取りに来られないことである。

そこでまず、ブックスタートを知らない方に伝えていくよう、LINEによる情報発信などに取り組んでいる。また、若い世代の大人が赤ちゃんを連れていくような場所にポスターを貼って、見てもらえるよう考えている。

(館長) 図書館フレンズいまりやおはなしキャラバンからも心配する声が出てきている。先日、その役員と協議を行った。3か月児健診が個別受診となったので、1歳6か月児健診で絵本を配るという意見も出たが、なるべく早い時期に絵本と触れ合う事業ということで、先程紹介した取組を行うということで、一旦理解をしてもらっている。

(委員) ブックスタートの案内を配られていると思うが、なかなか親は読まないのでは。「こんなに良いことがある」ということを表に出して、親に読んでもらう工夫を。

(館長) 単に絵本を配布するだけでなく、参加型、体験型の取組として実施し、読書のスタートになることを伝えていきたい。

(委員) 学校図書館事務職員研修会が紹介されているが、この取組は素晴らしい。学校図書館で働いている方の状況を教えてほしい。

(副館長) 小中学校に1名ずつ配置されているが、司書の資格はほとんど持っていない。学校図書館の専任ではなく、学校の事務も請け負っている。1日6時間しか働けず、長期休業期間も何日間かしか出勤できない。

(委員) 学校図書館の職員は、学校の先生と違って、孤立している部分も大きい。こういう研修会の存在は大きい。研修会の時間は？

(副館長) 研修会の時間は90分である。

(館長) 研修会も話を聞くだけでなく、グループに分かれて話し合った。学校訪問の折に、図書館からも帯同させてもらい、学校図書館の職員と話をしている。学校現場の意見として、どのような効果が出ているか、またはこのようにしてほしいという要望があれば聞きたい。

(委員) 9月に来ていただいた。時間が限られていたので、12月に再訪してもらい、具体的な話を聞いて、一緒に作業を行った。研修などで話を聞いて、刺激を受けて、改善に取り組めた。そこから充実感や満足感を感じていた。そこから敷居が低くなった感じで、図書館へ尋ねやすくなった。

(委員) 45番の「めばえの日」のトークイベントに参加したが、大変面白かった。出演者一人ひとりの発言がこれからの運営にヒントになるような内容だった。

(館長) 発言が一過性にならないよう、ファシリテーターに記録してもらった。30周年に向けてのヒントにもなったと思う。

(2) バリアフリー資料の収集について

●事務局から説明後、質疑応答

(委員) 貸し出しは全て可能なのか。

(副館長) 録音CDなど図書館に無いものについては、「あいさが」から借りることができる。ただし、プレクストーク（機材）はまだ貸すことはできない。試しに使ってもらい機会を作り、知らない方に「知ってもらおう」ことから始め、使い勝手が良いものを使ってもらいたいと考えている。なお、本は図書館で揃えたものが借りられる

(館長) 来年度は団体貸出で学校に届け、特別支援学級の児童・生徒に利用してもらおうと考えている。

(委員) 学級単位で借りたいと思うが、冊数は人数分揃っているか。

(副館長) まだ1クラス分までは整っていない。来年度までには準備できるようにしたい。

(委員) 借りられる期間は。

(副館長) 団体貸出は最長で2か月。1冊1冊では今でも本館で借りられる。

(委員) クラスの人数分を揃えるとなると、40～50冊必要となるが。

(副館長) 20冊程度は揃えていきたい。子どもの発達段階、障がいの度合いによっても理解度、関心はバラバラなので、ある程度の冊数の本から、どのジャンルに興味を持つかを見てもらい、次に持ってくる本をリクエストしてもらえば、関連する資料を準備する。写真や図鑑であれば、一般の本も準備できるので、興味を持たせることができる。どんな本に興味を示すのか、読書のきっかけ作りとしてLLブックなどを利用してもらえたらと思う。

(委員) 前回の委員会でも話したが、委員にも「望ましい基準」とは何かを理解してもらい、協力できる方で作業部会を作るなど、次回の協議会でもう一度確認

し合って協議することを提案する。

(館長) 貴重なご提案で、数値についても細かく検討、検証をしていく必要がある。それを協議会の中で検討してもらえるのは大変ありがたい提案だと感じている。その方法を考えていきたい。

(3) 今後の取り組みについて

●事務局から説明後、質疑応答

(委員) SDGsに関する本を100冊購入して、黒川コミュニティセンターの図書室に配置した。子ども達が利用して、環境に関心を持ってもらいたい。

(副館長) LED照明に交換したことで、電力量が下がっている。これも、カーボンニュートラルの取り組みの一つと言えるのではないか。今後も施設改修の折に脱炭素に向けての取り組みを進めていきたい。

4. 意見交換

(委員) 佐賀県立図書館の話題をテレビのニュースで見たが、取り壊されるのか。

(副館長) 詳しい情報は知らないが、建て替える場合の話し合いは以前行われたことはあった。ただ、最近そのような話は聞いていない。

(委員) 有名な建築家による建物だと聞いている。

5. その他

(1) 委員の任期

(2) 次回の協議会

●それぞれ事務局から説明

任期は令和6年5月まで 次回は令和5年6月に計画